

温泉分析書別表

1. 源泉名 岳温泉 (源泉名: 元湯)
 2. 源泉所在地 福島県二本松市永田字元湯1の2 福島県二本松市永田字元湯3の2
 福島県二本松市永田字元湯1の3 福島県二本松市永田字元湯3の3
 福島県二本松市永田字元湯2の2
 3. 温泉分析申請者 岳温泉管理株式会社 代表取締役 大内正孝
 4. 泉質 単純酸性温泉 (揭示用泉質名 酸性泉)
 5. 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。

- (1) 浴用の禁忌症
 一般的禁忌症 急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (特に初期と末期)
 泉質別禁忌症 皮膚、粘膜の過敏な人特に光線過敏症の人、高齢者の皮膚乾燥症
 (2) 浴用の適応症
 一般的適応症 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進
 泉質別適応症 慢性皮膚病

- (3) 飲用の禁忌症
 (4) 飲用の適応症 慢性消化器病

- (5) 浴用上の注意事項
 ア. 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。
 イ. 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を相当とすること。
 ウ. 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり (湯さわりの湯場反応) が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
 エ. 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 ・入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 ・入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
 ・入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で流さない (湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)。
 ・入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 ・次の疾患については、原則として高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。
 高度の動脈硬化症、高血圧症、心臓病
 ・熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 ・食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 ・飲酒しての入浴は特に注意する。

- (6) 飲用上の注意事項
 ア. 飲泉療養に際しては、温泉について専門的知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。
 イ. 温泉飲用の1回の量は一般に100mLないし200mL程度とし、その1日の量はおおむね200mLないしは1000mLまでとすること。
 ウ. 強塩泉、酸性泉、含アルミニウム泉及び含鉄泉はその泉質と濃度によって減量し、又は希釈して飲用すること。
 エ. 以上のほか、飲用については次の諸点について注意すること。
 ・一般には食前30分ないし1時間がよい。
 ・含鉄泉、放射能泉及びヒ素又はヨウ素を含有する温泉は食後飲用する。含鉄泉飲用の直後には茶、コーヒーなどを飲まない。
 ・夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けることが望ましい。

(注1) この別表は、温泉法第13条による揭示に必要な参考資料となるものである。
 (注2) 飲用については別途分析が必要であるが、参考までに禁忌症、適応症及び飲用上の注意事項を記載した。

別表作成年月日 平成 21 年 7 月 3 日

登録番号 新潟県 (登) 環企第3号
 新潟県三条市吉田1411番地甲

社団法人 県 央 研 究 所 理事長 高 野 貞 子



温泉分析書

(鉱泉分析試験による分析成績)

県央温第D-225号

1. 申請者 住所 福島県二本松市岳温泉1-275の1
 氏名 岳温泉管理株式会社 代表取締役 大内正孝
 2. 源泉名および湧出地 源泉名 岳温泉 (源泉名: 元湯)
 湧出地 福島県二本松市永田字元湯1の2 福島県二本松市永田字元湯3の2
 福島県二本松市永田字元湯1の3 福島県二本松市永田字元湯3の3
 福島県二本松市永田字元湯2の2 (ノッチタンクにおける混合泉の分析)

3. 湧出地における調査および試験成績
 (イ) 調査及び試験者 社団法人 県央研究所 山川正樹
 (ロ) 調査及び試験年月日 平成 21 年 6 月 16 日
 (ハ) 泉温 56.7℃ (調査時における気温14℃)
 (ニ) 湧出量 1,290 L/分 (自然湧出、但し混合泉の利用量として)
 (ホ) 知覚的試験 無色、無臭にして微白濁、強酸味を呈する。わずかに白色の沈析物を認める。
 (ヘ) pH値 pH 2.5
 (ト) ラドン (Rn)
 4. 試験室における試験成績
 (イ) 試験者 社団法人 県央研究所 中島和彦、山川正樹
 (ロ) 分析終了年月日 平成 21 年 7 月 3 日
 (ハ) 知覚的試験 無色、無臭にして微白濁、強酸味を呈する。わずかに白色の沈析物を認める。
 (ニ) 密度 1.0012 (20℃において) 0.9995 (20℃/4℃)
 (ホ) pH値 pH 2.54
 (ヘ) 蒸発残留物 0.585g/kg (乾燥温度110℃)

5. 試料 1 kg 中の成分、分量および組成

(イ) 陽イオン成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)	成分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
水素イオン H ⁺	3.2	3.17	37.92	フッ素イオン F ⁻	0.3	0.02	0.25
リチウムイオン Li ⁺	—	—	—	塩素イオン Cl ⁻	2.5	0.07	0.87
ナトリウムイオン Na ⁺	14.0	0.61	7.30	臭素イオン Br ⁻	0.3	0.00	0.00
カリウムイオン K ⁺	6.4	0.16	1.91	ヨウ素イオン I ⁻	—	—	—
アンモニウムイオン NH ₄ ⁺	0.7	0.04	0.48	亜硝酸イオン NO ₂ ⁻	—	—	—
マグネシウムイオン Mg ²⁺	9.5	0.78	9.33	硝酸イオン NO ₃ ⁻	—	—	—
カルシウムイオン Ca ²⁺	36.2	1.81	21.65	チオ硫酸イオン S ₂ O ₃ ²⁻	—	—	—
ストロンチウムイオン Sr ²⁺	—	—	—	硫化水素イオン HS ⁻	—	—	—
バリウムイオン Ba ²⁺	—	—	—	硫酸水素イオン HSO ₄ ⁻	38.6	0.40	4.98
アルミニウムイオン Al ³⁺	15.5	1.72	20.57	硫酸イオン SO ₄ ²⁻	362.2	7.54	93.90
マンガンイオン Mn ²⁺	0.5	0.02	0.24	リン酸水素二イオン H ₂ PO ₄ ⁻	0.4	0.00	0.00
鉄(II)イオン Fe ²⁺	1.1	0.04	0.48	メタ亜ヒ酸イオン AsO ₂ ⁻	—	—	—
鉄(III)イオン Fe ³⁺	0.2	0.01	0.12	炭酸水素イオン HCO ₃ ⁻	—	—	—
銅イオン Cu ²⁺	—	—	—	炭酸イオン CO ₃ ²⁻	—	—	—
陽イオン 計	87.3	8.36	100.0	メタホウ酸イオン BO ₂ ⁻	—	—	—
				陰イオン 計	404.3	8.03	100.0

(ハ) 非解離成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタケイ酸 H ₂ SiO ₃	137.5	1.76
メタホウ酸 HBO ₂	2.9	0.07
メタ亜ヒ酸 HAsO ₂	0.0	0.00
硫酸 H ₂ SO ₄	0.3	0.00
非解離成分 計	140.7	1.83

(ニ) 溶存ガス成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素 (遊離炭酸) CO ₂	0.0	0.00
遊離硫化水素 H ₂ S	0.5	0.01
溶存ガス成分 計	0.5	0.01

溶存物質 (ガス性のものを除く) 632.3 mg/kg

成分総計

632.8 mg/kg

(ホ) その他の微量成分

総水銀 Hg	不検出	(0.0005 mg/kg未満)
鉛 Pb	不検出	(0.01 mg/kg未満)
カドミウム Cd	不検出	(0.005 mg/kg未満)
総クロム Cr	不検出	(0.02 mg/kg未満)
総ヒ素 As	0.042 mg/kg	

6. 泉質 単純酸性温泉 (揭示用泉質名 酸性泉)

7. 禁忌症、適応症等 「温泉分析書別表」中5に記載する

平成 21 年 7 月 3 日
 登録番号 新潟県 (登) 環企第3号
 新潟県三条市吉田1411番地甲

社団法人 県 央 研 究 所 理事長 高 野 貞 子

